

優秀賞

小学生部門

鹿児島県鹿児島市
鹿児島市立皇徳寺小学校3年
鎌田 悠里

まほうの言葉

わたしはこの夏、グレンツェンピアノコンクールにちょうせんすることになりました。

ピアノの先生であるお母さんのすすめから、やってみようと思ったのです。しかし、いざ練習となるといつものやさしいお母さんが、じょうねつてきなピアノの先生にへんしんしてしまいます。

「ここからクレッシェンド」

「歌うように。心をこめて」

とたくさん注意がとび交います。わたしは毎回とび出す注意をうけて、何ども何ども練習しました。

しかし、わたしが

「もうやめた。つかれた」

と口にするとお母さんは、

「じゃあ、むりね。音楽は音を楽しむものだから音が苦しくなったら音が苦だからね」

と言いました。わたしはまさにその通りだと思いました。人にとどける音が楽しくなければ、聞く人も楽しくない。音をとどける人が楽しめば、心も楽しくなってくると思いました。わたしはお母さんの一言で、音楽に対する気もちがかわってきました。お母さんのまほうの言葉はわたしをやる気にさせてくれました。

お母さんは、わたしい外の生とさんにもまほうの言葉でレッスンをします。

「すてきな音。まるでゆめの中にいるみたい」

「今のは、なんだかまよった音だね」

と毎回がったかんそうとアドバイスをくれます。お母さんは、

「音楽は時のげいじゅつ。後にも先にもない今を楽しむものだから、一しよに楽しんだり、時にはかなしんだりおもしろいよ」

と教えてくれました。わたしは、お母さんのまほうの言葉で音楽を楽しむ人たちがふえていくのがうれしいです。そんなお母さんはすごいなあと思いました。